

令和7年度 三学期始業式 20260105

○3学期

新年あけましておめでとう。皆さんにとって、幸多き一年になりますように！
さて、今年は2026年、100年を1つと考えると、2000（21世紀）は四半世紀（25年）を終えて、次の四半世紀に入る。終業式でも述べたが、生成AIが当たり前になった社会が始まる。

今の高校生は、21世紀に入ってから生まれた世代。1990年代後半から、2000年代初頭に生まれたZ世代と言われる。いわゆるデジタルネイティブ。

さらに、君らの後輩たち、2010年から2025年は、新たな世代として、 α （アルファ）世代と言われる。日本の出生率は過去最低を更新しているが、世界中で言うと、史上最多の世代と言われる。この世代は、世界で言えば、一番多く、約20億人。この世代だけで、4分の1に及ぶ。そして、この世代の特徴が、まさにAIネイティブになるだろうと言われていいる。高校生がこれから共に歩む社会は、新しい世界観が登場したり、新しい価値観が広がったり、これまでと異なることを楽しめるマインドが必要になってくると思う。

よく「視野（しや）を広く持つ」という言葉が使われることがある。視野というのは、「目＝見る。野＝周辺、回り。」ということであり、目で見えるのだから、基本的に自分の立っているところからしか見えない。だから、視野を広くというのは、何か別の要素を加えないといけない。例えば、立っているところに、椅子を置けば、もう少し高いところに立つことになる。このように、ひと工夫を加え

ることで、視野を広くもてるようになるということである。この一工夫とは何か。それは「言葉」にしておくことだと思う。学んだことを言葉にしたり、書いておいたり、自分の言葉に置き換えておくことが、新しい世界を獲得していくきっかけになると思う。そういう繰り返しが、デジタルネイティブ、AI ネイティブが歩む、新しい世界での新しいことを楽しめるマインドを持つことにつながると思う。

もう一つ、座右の銘について、話したい。さて、2学期終業式で話をしたのを覚えているだろうか。座右の銘、または大切にしている言葉、考えてくれただろうか。私の大先輩が、「先輩には挨拶を！」を座右の銘にしているというのを聞いたことによる。

さて、隣の人と、座右の銘について、1分話してほしい。

そもそも、座右の銘とはなんだろうか。座右というのは、座席の右、座った右にあるということで、傍ら（身近）ということである。そして、銘（めい）というのは、金編に名前の名であり、この文字は、もともと、奈良平安時代から青銅器など金属に何かを刻みつける（忘れないように戒めなどを刻む）ことからきている文字だそうである。つまり、座右の銘とは、常に身近に置いておく、意識している言葉（文字）ということになる。

したがって、別に格好をつけたり、特別に四字熟語などを持ってきたりする必要はないし、常に思い返す言葉であることが大切なのである。そして、それが、多くの場合、その人の人物像を形作っているし、キャラクターを表していることが多いのが、この「座右の銘」と

言えると思う。

私は、「いつか、きっと」という言葉が、座右の銘だと思っている。何かをするときに、いつもこの言葉が真っ先に思いつく。とにかく、ゴールは近くではなく、遠くに遠くに、大きく大きく、置いておきたいというのが、私の信条である。皆さんはどんな言葉を大切にしているのだろうか。

2026年の前半は、世界的なスポーツイベントが目白押しである。2月にミラノ・コルディナ冬季オリンピック。3月にワールドベースボールクラシック。6月にサッカーワールドカップと続く。スポーツのアスリートの言葉は、その置かれた環境や夢の舞台であることから、名言や大切な言葉になることが多くある。

野球のイチロー選手は、数々の名言を残しているが、「無駄なことを考えて、無駄なことをしないと、伸びません」や、サッカーの本田選手は、「リスクのない人生なんて、逆にリスクだ」など、アスリートは、人とは異なる感覚を持って、ヒリヒリする世界で戦ってきたのがよくわかる。最近では、ソフトバンクグループの孫正義会長は、「志高く」の一言を座右の銘にしていると聞いた。先ほど、隣の人と、話してもらったが、ぜひ、いつも思い出す言葉などを大事にしてほしい。

それでも、まずは、足元から行こう。

令和7年度はまだ3ヶ月ある。この時期を大切にするために、「再起動」！まだ、

今年度は終わっていないし、令和7年度をしっかりと起動させてほしい。

この3ヶ月は、日本の学校特有の時期である。1月新年が開始されるのに、4月に新しい学年が始まるという、なんとなく過ごしがちな3ヶ月である。この3ヶ月について、校長通信に書いて、公開しているので、見てほしいが、1年のサイクルで言うと、この3ヶ月が日本の学びの中で、もったいない時期と言える。まずは、4月からではなく、すでに、新しい年は始まっていると、心新たに取り組みをしてほしい。これは、教員にはできず、生徒自身にしかできない。その意味で、再起動して、良い3学期を送ってほしい。